

中・高校における教育実習の現状と効果的な事前指導の在り方

The present of practice teaching at junior/senior high school,
And the way of effective prior guidance

柴田育郎(Ikuro SHIBATA)・西脇明美(Akemi NiSHIWAKI)

はじめに

教職課程を履修する学生の最大の難所であるとともに、本格的に教員を目指すかどうかの試金石となっているのが学校現場での教育実習である。この教育実習での成果が結果的に教師のレベルアップにつながると考えても過言ではなく、学生が充実した実習の日々を送り、意志をより高めるためには大学での事前指導がきわめて重要である。

筆者はいずれも自身が教育実習の経験をもち、且つ長年にわたり中学校(柴田)、高等学校(西脇)で実習生の指導に当たってきた。こうした経験をもとに、送り出す大学側、実習生側、受け入れる学校側それぞれの立場を踏まえて、効果的な事前指導の在り方を追究する。

1 本学における教育実習対応

(1) 学部と教職課程

本学は平成22年度より8学部となったが、過渡期にある現在は11学部17学科である。いずれの学科も教員免許の取得が可能で、教育学科の小学校免許、他学科での中・高校免許(国語・英語・社会が中心)等を合わせると各学年約300名前後が教職課程を履修している。基本的に全員に一種免許(大学院は専修免許)の取得を目指させており、平成22年度の免許取得者は小一種108名、中一種91名、高一種138名、特別支援一種72名であった。

(2) 教育実習校

平成23年度の教育実習校は下表のとおりである。(人)

区分 学校種	公 立					国立	私立
	愛知県	名古屋市	岐阜県	三重県	その他		
小 学 校	71	20	11	0	7	0	0
中 学 校	38	2	6	0	0	1	6
高 等 学 校	36	7	8	4	0	1	24
特別支援学校	36	0	6	3	0	0	0

中高一貫校の場合は実習を行った校種でカウント。原則的に愛知県・名古屋市の小・中校は出身校以外、愛知県以外と高校は出身校としている。

(3) 教育実習指導

教育実習と合わせて履修しなければならないのが「教育実習指導」(2単位)である。本学では平成23年度まで4年次前期に開講していたが、実習時期が4年次の6月前後となる者が多く、実習と重なったり、実習後にも受講したりという不都合があったため、平

成 24 年度からは 3 年次後期の開講とした。

授業はコマを変えて複数の教員が担当しており、そのシラバスも一定ではないが、「概要」と「目標」は共通である。

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護実習体験実習に向けて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

授業実習の内容・方法の理解、基礎的な指導技術の習得を図る。併せて、福祉施設、特別支援学校教育への理解を深め、教育実習及び介護等体験履修上の心構えを確立する。

【授業計画】

各授業者のシラバスから主な内容を列記するとほぼ以下のようなものである。このうち授業者によって取り上げる内容が若干異なっており、同じ内容でも順序やウエイトが異なっている。それぞれの経験や意図に基づくものであろう。

- 教育実習の意義・目的・心構え
- 実習の形態・内容・方法
- 実習記録の書き方・授業参観の方法
- 教材研究の仕方
- 学習指導案の書き方
- 発問・板書の方法
- 模擬授業（教科・道徳・ST・LT）
- 学級経営について
- 特別活動について
- 特別支援教育への理解
- 実習全般の注意・留意事項
- 介護等体験事前指導

(4) ガイダンスとケア

教職課程履修者（中・高免）に対するガイダンス等のスケジュールは以下のようである。

対象学年	時期	ガイダンス・説明等
1	4月	教職課程の履修方法・教員を志望するにあたっての心構え等
	7月	所属学科以外で取得できる教員免許状の取得方法について
2	7月	「教職履修カルテ」をもとにした面談
	10月	介護等体験に関する説明と参加にあたっての心構え等
	1月	教育実習についての指導・手続きの説明
	3月	介護等体験にあたっての諸注意
3	8～12月	介護等体験（担当教員による訪問）
	9月	教員免許状取得に必要な単位数チェック
	12月	教育実習申請書類の配布・手続きの説明
	3月	教育実習記録簿の配布・直前の説明と指導
4	5月	教育実習校訪問担当教員との打ち合わせ・諸注意
	5～9月	教育実習（担当教員による訪問）
	10～12月	教員免許状申請の手続きについての説明（1次・2次）
	3月	卒業式当日に教員免許状を授与

2 教育実習状況

(1) 事後調査による分析（平成 22 年度実施のもの）

教育実習を終えた学生に「実習記録」を提出させるとともに、それぞれの実習内容と感想や今後への意見等を知るために『教育実習を終えて』（アンケート形式）に答えさせている。これを詳細に読み、分析・まとめることで、実習生側から見た個々の実態と全体像が分かり、今後の事前指導に生かせると考える。

ア 実習前の不安

「実習に行く前に不安に思っていたこと」は以下のものであった。（順不同）

①授業がうまくできるか ②生徒たちとうまくコミュニケーションがとれるか ③学習指導案がうまく書けるか ④研究授業での失敗 ⑤自分が授業をすることで生徒や先生に損害をかけないか ⑥副専攻の知識で授業ができるのか（教育学科） ⑦授業時間の配分がうまくいくか ⑧指導教員はどんな人か ⑨実習校の雰囲気 ⑩先生方との関わり方 ⑪生徒にいじめられないか ⑫他の実習生とうまくやれるか ⑬実習校出身者ばかりの中でうまくやれるか（淑徳中・高） ⑭体調が保てるか ⑮朝早く起きられるか ⑯実習中に企業の面接が入らないか ⑰地・歴・公民のどの授業を担当するのか（社会科） ⑱担当授業の範囲を教えてもらっていない ⑲中・高どちらの配属か直前まで分からなかった ⑳学校行事(野外活動等)の間は何をしていけばよいのか ㉑何を準備すればよいのか ㉒小学校で経験しているので不安なし（教育学科）

① ②を挙げた者が圧倒的に多く、包括すればほぼこれに尽きる。教師の本務は授業であり、そのためには生徒との人間関係が不可欠であることを理解、もしくは本能的に感じているといえよう。⑯は企業就職も視野に入れている学生の本音であり、実際にこの学生は面接が入ったが受けなかった。⑰⑱⑲⑳は受け入れ校の事情によるものであり、㉑はやや主体性に欠けている。㉒は小・中免習得を目指す者で、余裕がある。

イ 配属学年と主な実習内容

平成 22 年度実習生の配属された担任学級の学年は次のとおりである。但し、他の学年の

担任学年	1 年生	2 年生	3 年生	回答不明
中学校	26 人	17 人	19 人	7 人
高等学校	46 人	41 人	17 人	0 人
合計	72 人	58 人	36 人	7 人

授業も行った実習生もある。比較的 1 年生が多いが、必ずしも明らかな傾向とは言えず、受験期の高校 3 年が少ないこと以外は受け入れ校の

都合や指導教員の専門教科、担任学年に関係するものと思われる。

実習の主たるものは専門教科の授業実習であるが、時間数にはかなり差がある。

H	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20 以上
中	0	1	3	6	5	1	9	4	7	4	3	2	1	5	0	1	2	1	1
高	4	2	12	8	7	7	12	6	5	5	6	3	3	3	3	1	3	1	5

【授業実習の時間】

1人当たりの平均は中学校9.8時間、高校は8.9時間であったが、最も少ない者は2時間、最も多いのは25時間と、かなりの差である。これも受け入れ校の事情によるもので、やむを得ないが、実習生の負担等を考慮しても最終週に1日2時間程度として計10時間くらいが適当ではないだろうか。平均値はほぼその値を示している。

専門教科の授業実習以外に行った内容として、中学校での実習生の68%が道徳の授業を行っている。また部活動の指導は中学校51%、高校60%であった。さらに、ほとんどの実習生が行ったのはST、給食（中学校）、清掃指導で、このほか学級日誌のコメント書き、生活ノート（日記）の朱書き、学級通信作り、宿題のチェック、試験の監督、テストの採点、居残り学習の指導・監督などを任された者もいる。生活ノートなどはかなりプライベートな内容も予想され、実習生が見るのはどうかと思うが、実習生の信頼度によって指導教員が裁量していると思われる。

実習生の勤務時間をみると、午前8時前後に出勤、午後7時前後に退出した者が多く、一般的な教員の勤務に近い。最も早く出勤した例は午前6時00分、遅い例は午前0時30分があるが、授業研究日前後で連日というわけではない。

なお、実習にかかった費用は2,000円～5,000円で中学校は給食費が主である。このほか実習中に社会見学等の行事に参加した者はバス代・入場料の実費、また、印刷用紙代（300円）、教科書代（1500円程度）を請求された者もあった。私立高校の多くは実習費として1～2万円が平均的で、中には45,800円という高校もあった。

ウ 実習の喜びと苦勞

教育実習に行つて「よかったこと」、「困つたこと」を内容別にまとめてみる。

	よかったこと	困つたこと
生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生」と呼ばれた・生徒たちと一緒に話せた・お別れ会で生徒が泣いて別れを惜しんでくれた・生徒から「先生の授業が楽しみ」と言ってもらえた・生徒が良く聴き理解してくれた・生徒が元気で明るかった・生徒たちが素直だった・生徒の学習意欲が高かった・生徒から手紙をもらった・小学生と違って言葉が伝わりやすかった。(教育学科)・生徒に「学校に行くのが楽しくなった」と言ってもらえた・「授業で学んだこと」に自分の伝えたかったことが書いてあった・生徒が「先生になって帰ってきてね」と言ってくれた・生徒の挨拶が気持ちよかった・生徒が気さくに話しかけてくれてリラ 	<ul style="list-style-type: none"> ・女子生徒とうまくコミュニケーションできなかった(男子実習生)・生徒との距離感のとり方が難しかった・小学校と比較してしまい、すぐに馴染めなかった(教育学科)・無条件によってくる小学生と違い、全くこちらに興味を示さなかったので、最初の1日が大変だった(教育学科)・生徒と仲良くなるのに時間がかかった・生徒の名前をなかなか覚えられなかった・生徒観で流行している話題についていけなかった・恥ずかしがり屋が多く、話しかけてくれなかった・「先生」と呼ばれず、「ちゃん」付けされた・なかなか名前を覚えてもらえなかった・生徒の名前と顔がなかなか一致しない・意識していないと一部の生徒だけ

	ックスできた	との触れ合いになってしまう
指導教員	・先生と生徒が温かかった・指導教員から授業技術が上がったと褒めてもらった・指導教員が、優しく熱心だった・お忙しいにもかかわらず丁寧に指導してくださった	・うまくいかなかった・指導教員が忙しくて、なかなか打ち合わせの時間が取れなかった・途中で学校訪問があり、忙しそうで質問しづらかった・異なる先生から異なる指導を受けた・先生によって言う事や指導がバラバラだった・指導教員が出張で6日間も指導が受けられなかった・指導教員となかなか打ち解けられなかった・指導教員が新任だった
授業等	・うまくできた・授業を楽しんでやれた・自分のやりたい授業をやらせてもらった・全学年で授業ができた・朝夕のSTを一人で担当できた・多くの先生に見てもらえた・分かりやすいと褒められた・生徒から楽しい授業だと言ってもらえた・予習をしてきてくれた・多くの先生方にアドバイスをもらった・生徒が協力的だった	・眠くなる授業といわれた・大学での指導案作りが役に立たなかった・元気の良い生徒が発言権をめぐって争った・クラスや生徒によって理解度や集中力の差があり、その配慮が難しかった・指導案の書き方が難しかった・予定通りに授業が進まず、臨機応変に対応できなかった・自分の知識のなさ・生徒がおとなしすぎて手が上がらなかった・教科書中心で、大学の模擬授業と方法が異なっていた・大学の学んだ指導案の形式と違った・10分間講話・「分かりません」と言われた時の対応・眠る生徒の対応
生徒指導	・大学では学べない実際の生徒の行動や反応を知ることができた・挨拶ができるようになった・自分の話し方の癖が分かった	・授業放棄しようとした生徒がいた・生徒に注意したり叱ったりできなかった・生徒指導の祭、適切な言葉を選ぶことが難しかった・心を開いてくれない生徒への対応・生徒から連絡先を教えてほしいと言われた・問題女子生徒が教生に暴言や手を出してきた・生徒指導に関わる度合い・生徒自らが反省するような叱り方が難しい
部活動	・部活動で1～3年生までの生徒と幅広く交流できた・部活動を教えることの大切さを学べた・部活で自分の好きな野球	・部活動を見る時間がほとんどなかった

	がやれた	
勤務	<ul style="list-style-type: none"> ・自主性を重んじて何でも挑戦させてくれた・毎日の充実と喜びがあった・自分自身にマナーが身に付いた・いろいろな行事に参加できた。教員の楽しさと難しさが分かった・教員になる決心がついた ・自分に不足しているものが分かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食を食べる時間が 10 分間しかなかった・給食が多くて、食べるのに苦労した・給食を食べるのが生徒より遅かった・交通不便だった・実習校の雰囲気になかなか馴染めなかった・自転車でノートパソコンを持っていくこと（雨の日も）・実習記録を書く時間が取れない・思っていた以上に連絡事項や雑務が多い・パソコンやプリンターの時間制限・検印がなかなかもらえず、帰宅できなかった
体調	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間がほとんどなかった・体力的にきつかった・体調を崩し、授業で声が出なくなった・痩せた・熱が出た
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・他大学の実習生からの情報が得られた・現在の中学校・中学生の実態が見られた・知っている先生がいないので伸び伸びできた・実習生同士で励ましあえた・小学校の実習の反省点が生かされた（教育学科）・一生懸命やるほど返ってくるものがあつた・私立の教育方針・方法を知ることができた・自分自身が成長できた 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を出すことに苦労した・自分の経験していない行事のアドバイスができなかった・大学での教職授業は意味のないことばかりだった・実習生が 1 人で、職員や全校生徒への挨拶の機会がなく、最後まで存在を知らない先生もいた・他の実習生のマナーが悪く控室でとともうるさかった・ノートパソコンを自費で用意した・USB やパソコンの持ち込みが禁止だった・快適な服装でよいと言われたが程度に迷い、ずっとスーツだった・実習費が高い・在校時代のことを知られるのが厭だった

配属された学校によって実習生の喜びも苦労も様々に異なることが分かるが、最もコメントの多いのはやはり生徒との関わりである。短い期間であっても生徒と交わされた情愛についての喜びや感動が伝わってくる。

エ 実習校による指導

前項の解答にもあるように、受け入れ校では指導教員（配属学級の担任と教科が異なる場合は 2 名）を中心に誠実な指導をしてくださっている。授業や学級経営等の一般的な指導のほかに実習生が特に「注意された」と感じたことは以下のようなものである。

【授業に関して】

- ・教材研究をしっかりと・授業の組み立て方・時間配分・発問の仕方・授業の初めに「本時の

目標」を板書する・主体は生徒であること・生徒のペースに合わせて指導する・生徒を巻き込んで一緒に授業をつくっていく・欲張らず、重要なことを詳しく・生徒にもっと頭を使わせる・作業を取り入れる・教科書の資料を活用する・資料の見せ方・話し合いのさせ方・意見を認め、否定しない・板書の仕方・文字の大きさ・文字の正確さ・生徒の目を見て話す・一番遠いところの生徒に話しかけるようにする・イントネーション・語尾を伸ばさない・早口にならない・声が小さい・語尾まではっきりと・繰り返さない、しゃべらない、あせらない・無駄を省く・指導案通りでない発言のフォロー・担当学年以外の学年の授業も見ること・創造的な授業の工夫・授業に山場を作る・黒板に向けて話さない・生徒目線で話す・平等に指名する・教科書を下において読まない・丁寧すぎるぐらいの説明を・授業第一交流第二

【学級経営に関して】

・朝のSTでは業務連絡は短くし、生徒に希望をもたせる話をするといよい・ST時は担任より早く教室に入らない・一人でクラスに入らない・異性と2人にならない（高校）

【生徒指導に関して】

・怒ると叱るは違う・深く考えて言葉を選ぶ・携帯電話を見たら注意する（即没収の学校もあり）・もっと厳しく注意すること・叱った後のフォローを・「ごめん」はすぐに言わない・問題生徒のことを他の生徒の前で話さない・生徒に深く介入し過ぎない・生徒との距離感を保つ・社会的に良くないことは教えない・下校指導をする・不良生徒に中途半端に近づかない・生徒の名前の呼び方・生徒目線で話を聞く・罰することを恐れない・生徒の環境に配慮

【態度や姿勢に関して】

・教師の影響力の大きさ・生徒とたくさん関わる・時間を守る・遅刻厳禁・生徒の模範となること・早めの行動を・生徒の様子や反応に敏感でいること・挨拶・身だしなみ・もっと教員の仕事を観察する・怖がらずにやってみる・自分で考えて行動する・指導教員に無断で何かしない・一人一人を大切に・常に教師としてふるまう・時間厳守・言葉遣い・報、連、相

【その他】

・個人情報の扱い方・守秘義務・生徒からの悩み相談は担任に伝える・生徒との連絡先の交換はしない・道徳授業での「人権」の扱いには細心の注意を・給食は必ず時間内に終える

教育現場ならではの実践に即した細かな指導や注意が行われている。実習生が身にしてみたもの、あるいは若干の違和感をもったものあるかもしれないが、指導教員の経験と理念に基づいたこれらの指導の言葉は重く、将来教員になった後にも貴重な糧になることだろう。

オ 大学での指導の問題点

今後『大学で指導してもらいたいこと』への回答をまとめたものが以下である。これらは実習を終えた経験から、「もっと指導しておいてほしかった」、言い換えれば「なぜ指導してくれなかったのか」という思いが表れており、大学での指導に携わる我々の反省材料であり、今後の課題とすべきものである。

①指導案の作成

・指導案の作成（形式が異なり戸惑った、大学で受けなかった指摘が多くあった、根本的に間違っているとされた）・作成の回数を多く・指導案作りに慣れておらず、他の実習生（教育大）に大きく差を付けられた・「単元設定理由」の書き方を詳しく・指導案を提出した後に個別の添削等のフィードバックをしてほしい・教材研究の視点を教えてほしい

② 擬授業の機会

・大学での模擬授業がとても役に立った・生徒数の多い模擬授業
・模擬授業の回数を多く・やる気を育てる授業の仕方をもっと詳しく
・授業中の生徒の評価の仕方・黒板とチョークでの模擬授業・発問方法

③ 道徳の授業

・道徳の指導案作成（教材を決める際に大変困った）
・道徳の模擬授業の機会と、綿密な指導

④ 中学校の授業

・高校向けの内容が多く、中学校の指導案例は学ばなかった・中学生向けの授業展開や模擬授業・愛知県や名古屋市の指導案のサンプル

⑤ 実戦的な指導

・授業で使える専門的知識・S T等の実戦的な指導・長年現場で働いていた先生に指導してほしい・実戦で使える講義を充実・現場で必要なことに力を入れて指導してほしい・大学での授業が全く役に立たなかった・I T活用の授業

⑥ その他

・人の前に立って話す機会を多く・地理系の授業・学校や生徒の現状と実態・記録簿の書き方・菓子折りや礼状のこと・統一した漢字使用（出来た→できた）・給食指導・個人情報の取り扱い・発達障害を有する生徒への対応

カ 後輩に伝えたいこと

教育実習の苦難を乗り越えた者から、後輩に送るメッセージ及びエールである。実習直後の熱気と感動が伝わってくる。順不同で羅列する。

・事前準備の有無で実習中のたいへんさが変わる・修行のつもりで・人との触れ合いに慣れる・自分を過信せず、卑下し過ぎず・わからないことは訊く、いいと思ったことは行動する・努力次第で充実する、楽しんでください・真剣勝負、生徒はきちんと見ている・失敗を恐れずに・どれだけのものが得られるかは自分の目的意識による・生徒たちに救われる・担当教師のチェックを早めにもらう・終わればあっという間、大学の授業は役に立たないからボランティアとかやっておく・いつも笑顔で、元気で・先生や生徒から学ぶ・自信をもって教壇に立つ・実習させていただけることに感謝する・生徒の顔を見るだけで疲れが吹き飛び・色々な授業の進め方ややり方に挑戦・担当教員と早いうちから自分の授業について相談を・担当教員と仲良くなれるかどうかでがらりと変わる・放課は控室にいるのではなく、クラスで生

徒とたくさん話をする。生徒とコミュニケーションがとれているかどうかで授業が変わる・規則正しい生活をして体力を付けておく・教職が自分に合っているかどうかははっきり分かる・睡眠時間は2時間・自分がやっただけ返ってくるのが実習・積極的な姿勢が生徒や先生からの信頼を生む・一生に一度きり・ひとまわり成長できる・実習記録は下書きをしてからペンで本書きを、修正は失礼・実習校が決まったら事前にHPを見ておく・学校の雰囲気や方向性が分かってよい・教材研究をしないと自分が辛い・絶対実習に行くべき、世界が変わる・最高に楽しく、最高に辛くて、最高の経験になる・現場の先生たちはプロの技をたくさんもっている、それをつかみ、真似ること・楽しいと思わせる授業でなければ信頼も生まれない・思いがけない質問もある、教材研究をしっかり・指導教員によって良くも悪くもなる・できなくて当たり前だと開き直す・寝る時間はまったくない・ありのままの自分がいちばん伝わる・全力で頑張れば全力で答えてくれる・とにかく失敗ばかり・若さをフル活用して生徒との距離を詰める・実習前は胃がおかしくなりそうだったが、1日終われば落ち着く・生徒と仲良くなるために行くのではない、指導することを学ぶため・生徒たちは皆かわいい・皆同じように不安です・以外にも早く終わる、より濃い内容にするためにも自分から積極的に先生や生徒と関わっていく・本気でぶつかると辛さを感じない・生徒の下校後、授業の準備をすればよい、触れ合う時間を大切に・3週間あまり寝なかった・服装や言葉遣い等、最低限のマナーがあれば、後は大学での指導が生きてくる・大学での勉強を生かすのは難しい・ST等での話のネタになるようにボランティアなどをしておく・良い・指導案は早くから作っておいて何度も練習すること・理想と現実の違い、キャパをもつこと・自分の授業をどんな授業にしたいか考えておく・体調管理・大学の先生の雑談の中にヒントがある

キ 意識の変化

事後アンケートの最後は教育実習を経験したことによって「教職に対する適性や志望についての意識がどう変化したか」を問うものである。

【プラス志向】…約9割

・志望する気持ちが高まった、強くなった、確かになった・自信がついた・頑張っている気がした・教師にびったりだと思った・自分にはこの職しかないと感じた・もっと授業をやってみたい・ますます先生になりたいと思った・はやく教師になりたい・やりがいのある仕事だと思った・先生方から向いていると言われ、教師として働いていく自信をもった・必ず採用試験に合格しなければならない・教える立場になることで一歩大人に近づいた・高校希望だったが中学校でも教員をやってみたい・現場で先生方のチームワークや懸命さを見て憧れをもった・現実には厳しい、あきらめようとも考えたが、生徒とのかわりが楽しく、道を歩み続けたいと思った・社会に貢献できる素敵な職業・自分に合っていないと思っていたが、生徒を目の前にして教職に就きたいと思った

【中間的志向】…約1割

・今の熱い思いを持ち続けられるかどうか・志望は高まったが力の無さも実感した・磨くべき部分、身に付けるべき部分、このまま持ち続けるべき部分が明確になった・専門知識の不足を自覚した・授業がうまくできず適性がないのでは・優しいだけではだめ、自分はまだまだ指導力が乏しい・自分のやりたいこととできることとの違いを感じた

【マイナス志向】…数名

・一生の仕事にはできないと思った ・怖気づいた ・無理だと思った

教職志望の意志を高めた者が圧倒的に多く、短いコメントからも感動や意気込みが伝わってくる。実習校の先生たちは将来のある若者の意欲を削がず、励ます方向で指導してくれていることから、適性についてはあくまでも「自己評価」と考えたほうが良いだろう。しかし、明らかにこれまでの「なりたい」から「やれる」「なろう」の気持ちに向いたことは確かである。迷いのある、あるいは冷静に考えている「中間的志向」グループ及び「マイナス志向」の数名もこれであきらめてしまうとは思えない。逆にこうした認識から教職に就いた者が大成する場合も少なくない。

ク その他

記入者は少なかったが、本音が伝わる貴重な意見がみられた。

- ・他大学に比べ「実習記録」の1日分の量が多く、生徒に接する時間が少なくなった。また、担当教師のコメント記入欄も大きく、忙しい中、負担になっていた。
- ・実習記録簿の「参観・参加記録用紙」の改善を。
- ・私立出身で私立中・高での実習だと偏った考えを持ちそう。
- ・他県で実習したが、採用試験を受験する自治体での実習を望む。
- ・名古屋市での実習ができるようにしてほしい。(筆者注…人数制限あり)
- ・できれば3年生でやりたかった。採用試験までの時間がない。
- ・嬉しいことより悲しいことのほうが多かったが、自分を見直す良い機会となった。
- ・たくさんの人に迷惑をかけ、助けられた。先生方に感謝の気持ちでいっぱい。
- ・先生方が1年かけて作り上げている学級で実習させていただいていることを忘れず、我流でなく、担当の先生のやり方や方針に合わせるべき。
- ・実習生は先生方のお荷物でしかないと重々感じた。だからこそ教員第1志望としない人には実習に行ってもらいたくない。先生方にとっては時間の無駄でしかない。
- ・実習校の先生は実習生をストレスのはけ口にしないでほしい。

(2) 実習校側から

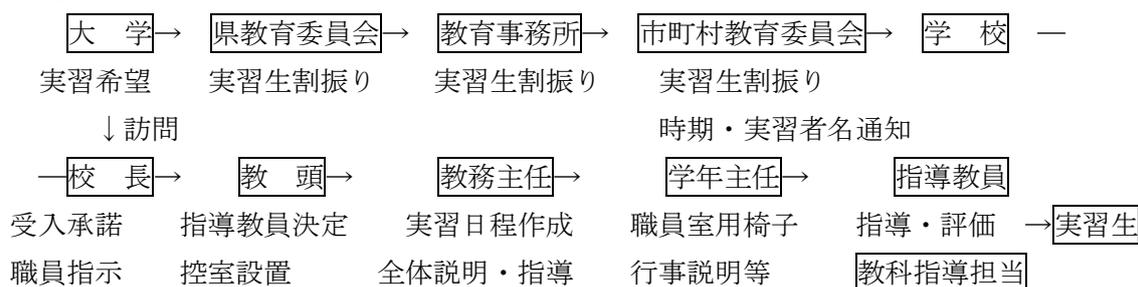
ア 受け入れ体制

実習を受け入れる学校側のメリットは何かというと、実質的にはほとんど無い。あえて言えば若い学生を迎えての生徒・職員への刺激や活性化、そして指導教員の力量アップということになるが、それがなくてもどうということはない。逆にデメリットは多く、対応や指導のために時間をとられる、行事の日程を調整するなど多忙な学校運営に

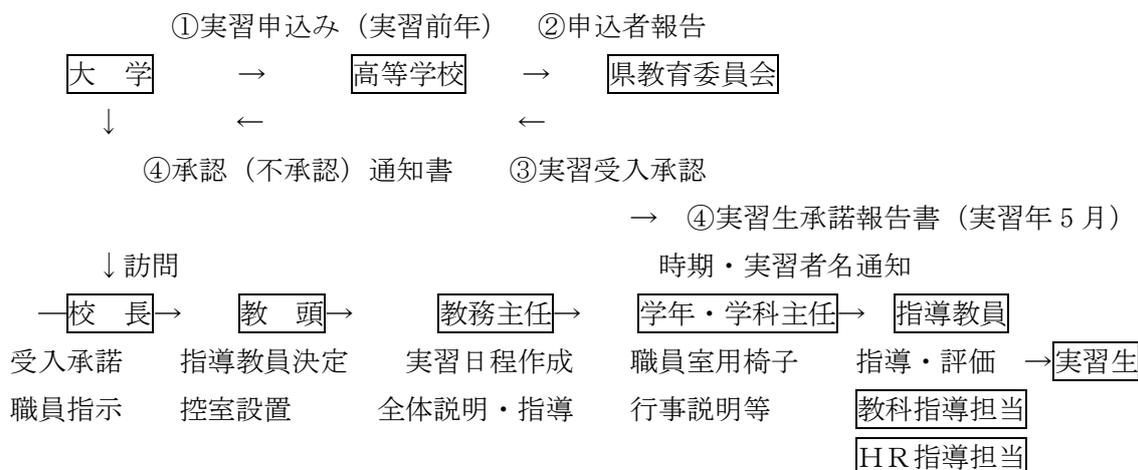
輪をかける。また実習生の授業や指導が不十分で、後で修正したり二度手間になったりする場合もある。では何故受け入れるのか。

それは当然の使命であるからだ。教育＝教員である。その教員を順次根気よく育てていかなければ学校教育は成り立たない。自らが貴重な実習で育ててもらったように、次世代の若者を育て、何より大切な教育の仕事を引き継いでもらう。それが学校や教員の使命であり、役割である。時期や人数は教育委員会からの割り当てという側面もあるが、私の知る範囲の教員からは不満や疑問の声を聞いたことがない。

【中学校】 公立中学校での一般的な受け入れ体制



【高等学校】 公立高等学校での一般的な受け入れ体制



(備考)

- ・附属学校を設置している大学にあつては、当該校での実習を原則とする。
- ・受入数は、第1学年の学級数程度(愛知県)・全学年の学級数の3分の1を標準とする(岐阜県)。これを超える場合は、県教育委員会との協議が必要

イ 問題点

【中学校】

○指導教員の選定

実習生の感想にもある通り、実習の充実度・満足度は指導教員によるところが大きいのは否めない。できるだけ力量のある教員を付けたいが、実習生との教科の一致、校務

分掌や対外的な役割等からの仕事量を考慮しなければならない。職員数の少ない学校ではなおさらで、やむを得ずごく経験の浅い教員を指導教員とする場合もある。

○学校行事

実習時期はたいてい6月と9月が中心である。この時期の学校は最も諸活動に適した時期で、学校行事・定期テスト・校内授業研究・対外的な出張が目白押しである。学校5日制以降、教育実習のために調整することは極めて困難となっている。実習期間のうちに体育祭、修学旅行、自然教室等、何がしかの行事が入る場合が多く、関わりのある学年に配属されると、準備等を含めて参加することになる。それもよい経験とはなるが、肝心の授業の準備や指導に影響が出るのは必至である。

○教員の多忙化

いうまでもなく現場の教員は多忙である。生徒の登校から下校まで息つく間はなく、夜の家庭訪問から土・日の部活指導までこなしている。指導教員を任されるような力量のある教員ほど忙しく、対外的な仕事（市の教科指導員や研究部員等）で出張の多い教員もいる。こうした日常の仕事の間に実習生の指導案作りの指導や記録簿の朱書きを行っている。心苦しくも十分な時間がとれないのが実情である。

○評価

実習後の評価は教科指導面と生徒指導面に分けたもの及び総合評価がそれぞれA・B・C・D（不可）の4段階で行われているのが一般的である。実習校側での評価者は直接指導に当たった担当教員である。無論、そこから教務主任・教頭・校長までの役職者が順次認めたくえで大学に提出されるわけだが、たいていは担当教員の評価が最大限尊重される。校長も研究授業を参観したり記録簿を読んだりしているので、ほぼ納得して印を押すことが多いが、時には意外な評価である場合がある。もしこの指導教官でなかったら、もし他の学級の配属だったら、と考えると悩む。教員や校長に特別な意図はあり得ないものの、公正な評価は難しい。

【高等学校】

問題点については、中学校の内容と同じであるが、その他、次の点について追加しておきたい。

○私物パソコン・私物記録媒体の使用

情報セキュリティの強化と事故防止のため、私物パソコンや私物USBの学校内への持ち込みを禁止している学校が増えてきている。時間的に制約の多い実習生には、指導案や教材作成、プリントアウトに不都合が生じているので、この実情をよく把握して対処する工夫が必要である。

○危機管理

実習中に生じた事故等には、出勤途中の交通事故、校内での盗難、活動中の怪我、プライバシーに関するトラブルなどがある。また、インフルエンザやはしか、水ぼうそう、おたふくかぜなどの感染症の流行に伴い、ワクチン未接種者や感染者の実習の見合わせ

を考えなければならない事態も生じている。実習生は各自、危機意識を持ち、損害賠償保険への加入、感染症予防への対応、体調管理等、自己管理に努める必要がある。

○社会人としてのマナー

一般的な挨拶・礼法、授業の始めと終わりの挨拶の仕方、言葉遣い、TPOをわきまえた身だしなみ、時間厳守、遅刻や欠席の場合の対処の仕方、個人情報の守秘義務等について、十分に心得ておくことが極めて大切である。

3 望ましい教育実習指導

(1) 今後求められるもの

平成元年から始まった「初任者研修」制度、平成14年度に法制化された「10年経験者研修」、そして平成20年度からの「教員免許更新制度」と、現職教員の研修義務は次第に重みを増している。その是非や功罪については置くとして、こうした流れは大学での教員養成は必ずしも最終段階ではなく、完成品を送り出す必要はないと考えてよいのだろうか。そうとは思えない。教員免許を取得した段階で教育に携わることは可能なのである。よく患者の命を預かる医師との比較が持ち出されるが、人間の一生を左右する教育に携わるのが教員である。その教員資格取得に大きく関わる教育実習のもつ重みは変わらない。できる限りの効果をあげ、即戦力の教員養成を目指すのが大学の役目である。そのための「教育実習指導」の授業はどうあるべきか。

無論、直接の指導は実習校であり、大学での指導はそこでの効果を最大限に引き出すための準備を助けレディネスを高めることにある。ここまでに述べた内容、特に2(1)オにおける実習生の実感や要望を十分にくみ取った指導内容・方法を検討したい。

実習を終えた学生たちが大学での指導について特に希望したのが

①学習指導案の作成と添削②模擬授業の機会を多く③道徳の授業④中学校の授業⑤現場に必要な実践的な指導である。15回の授業ですべてを満たすことはできないが、可能な限りシラバスに盛り込んで対応したい。

(2) 効果的な「教育実習指導」シラバス

一例として次のようなシラバスを考えた

【授業計画】

回数	内 容	備 考
1	教育実習の意義・目的・心構え	先輩たちの声(事後調査より)
2	教育実習で行うこと	実習生の1日
3	学習指導案の構造と書き方	基本的なスタイルと変形型
4	学習指導案の作成・教科(1)	校種・教科を選んで
5	学習指導案の作成・教科(2)	相互添削
6	学習指導案の作成・教科(3)	代表例を検討
7	模擬授業・教科(1)	グループ(全員が行う)

8	模擬授業・教科（２）	全体（代表者）
9	学級経営・生徒指導・学校行事	具体例を中心に
10	S Tの模擬指導	グループ（全員が行う）
11	学習指導案の作成・道徳（１）	基本様式と題材選び
12	学習指導案の作成・道徳（２）	相互添削
13	模擬授業・道徳	グループ（全員が行う）
14	介護等体験・特別支援教育	心構えと諸注意
15	実習記録の書き方・実習校での注意事項	先輩たちの声（事後調査より）

できる限り実戦的な内容としたが、必ずしも十分ではないと思われる。指導案作成は次週までの宿題として課さないとな授業での効果的な指導が期待できない。学生がついてこられるかが問題である。「先輩たちの声」を意識させ、必要感に迫らせて取り組ませたい。

参考文献 「中学・高等学校教育実習ノート」教育実習研究会編 共同出版
「教員免許状取得の手引き 教職課程便覧 2011」 愛知淑徳大学